



取扱書・保証書

よくお読みになってご使用ください。

C+walk T



本書の見方	2
イラスト目次	4

1 取扱書

1-1. 安全・安心のために	
安全に使用するために	8
1-2. 走行方法	
キー	14
乗車・降車するときは	20
走行するときは	23
状態表示パネルの見方	31
1-3. 充電方法	
バッテリーの充電方法	33

2 点検

2-1. 点検	
点検の必要性	44
点検項目	45
2-2. 使用前点検	
使用前点検のしかた	48
使用前点検の記録	58
2-3. 定期点検	
定期点検のしかた	59
定期点検の記録	64

3 仕様情報

3. 仕様情報	
仕様	66

4 保証

4. 保証	
保証について	70
保証書	71
保証登録書	76

本書の見方



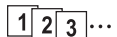
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

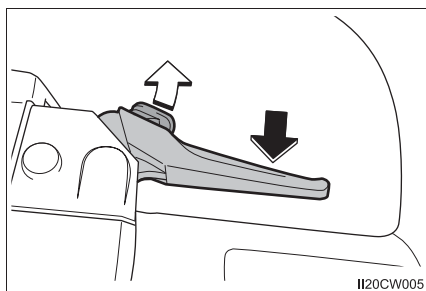
お守りいただかないと、モビリティや装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

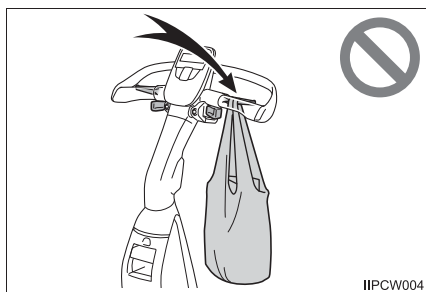
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。

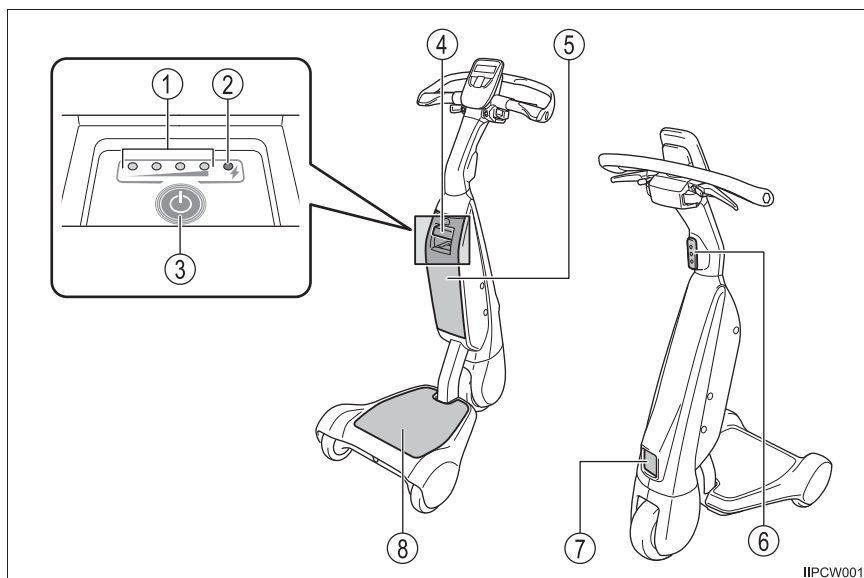


知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト目次

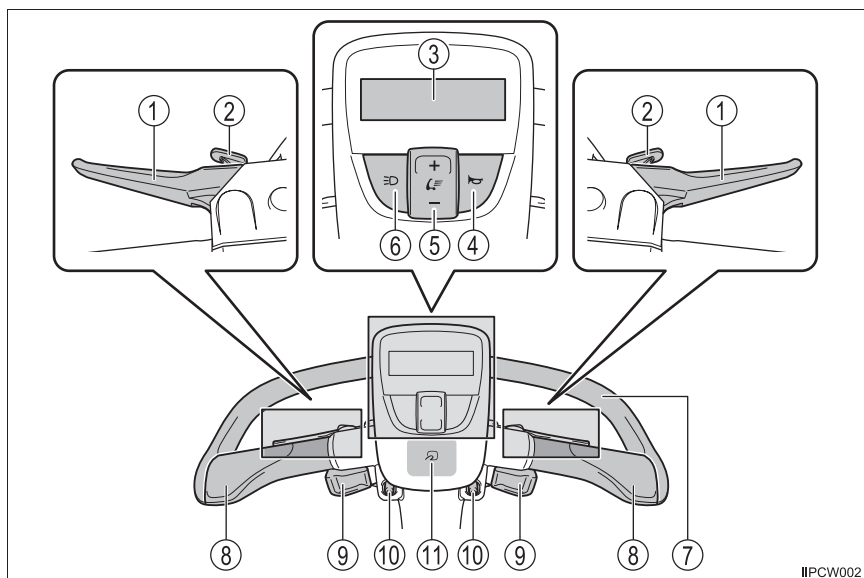
■ 外観



IIPCW001

- | | |
|--------------------|-------|
| ① 電池残量表示 LED | P. 37 |
| ② 充電状態表示 LED | P. 34 |
| ③ 電源スイッチ | P. 20 |
| ④ バッテリーレバー | P. 33 |
| ⑤ バッテリー | P. 33 |
| ⑥ 前照灯..... | P. 25 |
| ⑦ 周辺検知センサー★..... | P. 25 |
| ⑧ ステップ..... | P. 20 |

■ハンドル部

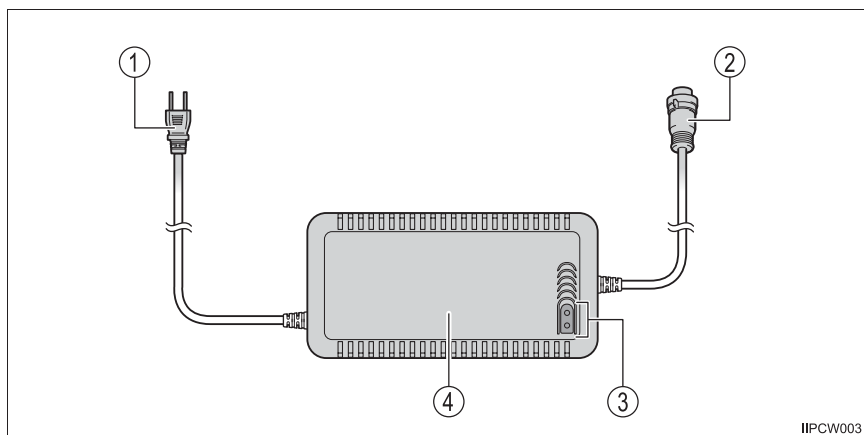


IIPCW002

- ① ブレーキレバー.....P. 24
- ② パーキングブレーキレバーP. 24
- ③ 状態表示パネル.....P. 31
- ④ 警鐘スイッチP. 25
- ⑤ 速度切りかえスイッチ.....P. 23
- ⑥ 前照灯スイッチ.....P. 25
- ⑦ ハンドルプロテクター.....P. 13
- ⑧ ハンドル.....P. 8, 20
- ⑨ アクセルレバー.....P. 23
- ⑩ バックボタンP. 23
- ⑪ キー認証エリア.....P. 14, 20

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 充電器



- | | |
|---------------|-------|
| ① プラグ..... | P. 34 |
| ② 充電コネクタ..... | P. 34 |
| ③ インジケータ..... | P. 34 |
| ④ 充電器..... | P. 33 |

取扱書

1

1-1. 安全・安心のために	
安全に使用するために	8
1-2. 走行方法	
キー	14
乗車・降車するときは	20
走行するときは	23
状態表示パネルの見方	31
1-3. 充電方法	
バッテリーの充電方法	33

安全に使用するために

モビリティを安全にご使用いただくために、次のことをお守りください。

使用前の点検

モビリティを使用する前に必ず点検し、異常や破損がないか確認してください。異常や破損がある場合はモビリティの使用を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

点検方法については、P. 45 を参照してください。

運搬方法

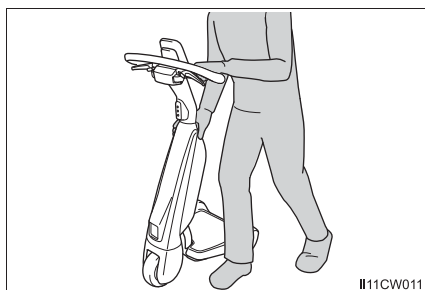
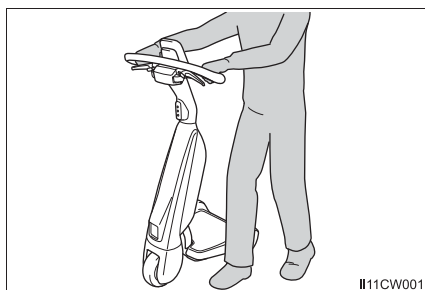
■ モビリティの押し方

モビリティの横に立って左右両方のハンドルをしっかり握り、ゆっくり前に押してください。

パーキングブレーキがかかっている場合は、解除してください。
(→ P. 24)

電源スイッチを ON にしてキーを認証させ、アクセルレバーを操作して押すこともできます。その際は、アクセルレバーを押しすぎて急加速しないように注意してください。

下り斜面でモビリティを押すときは、図のようにモビリティを支えて押してください。

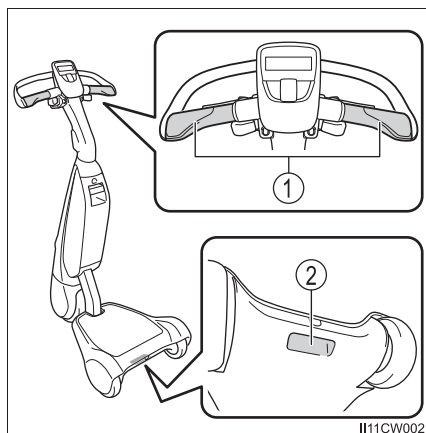


段差を乗り越えるときは、左右両方のハンドルをしっかり握って持ち上げ、前輪を上げてください。

■ モビリティを持ち上げる

電源スイッチを OFF にして、次の安全に持ち上げられる箇所を持って運んでください。

- ① ハンドル
- ② ステップ後方



■ モビリティを固縛する

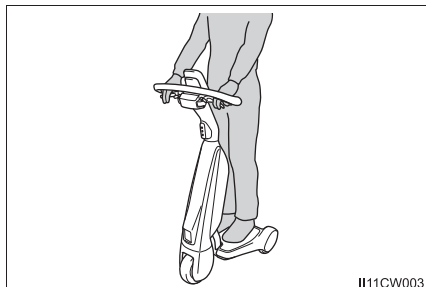
モビリティを運搬や輸送するために車両などに固縛するときは、ハンドルおよびステップを使用して固縛してください。また、必ず電源スイッチを OFF にしてパーキングブレーキをかけてください。
(→ P. 24)

傷が付くのを防ぐため、ハンドルやステップに布などを巻いたり、保護材を置いたりするなどして保護してください。

モビリティを固縛したあとは軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

正しい運転姿勢

ステップに両足を乗せ、左右両方のハンドルをしっかり握り、まっすぐに立ってください。



走行する前に

- モビリティに乗車して正しい運転姿勢をとり、ハンドルを左右に操作して操作に支障がないか確認してください。また、アクセルレバーやブレーキレバーが確実に操作できるか確認してください。

運転操作に支障がある場合は、モビリティの使用を控えてください。

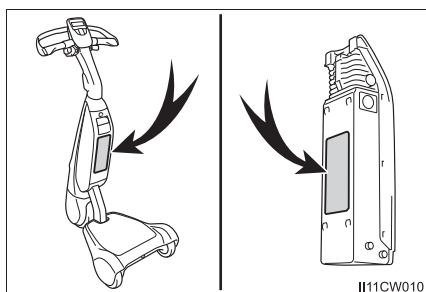
- 初めて乗る際は、モビリティの取り扱いや走行に慣れるまで歩行者や障害物のない広い平坦な場所で練習し、モビリティの操作方法を覚えてください。

練習する際は最大速度を 2km/h に設定し、徐々に最大速度を上げて速度に慣れてください。(→ P. 23)

ラベルについて

モビリティおよびバッテリーには、走行や取り扱いに関する注意事項が記載されたラベルが貼られています。本書の内容と併せて参照してください。

ラベルははがさないでください。



モビリティのお手入れ

モビリティが汚れたときは、水またはぬるま湯を含ませた布を固くしぼり、汚れをふき取ってください。

モビリティの保管

- モビリティは、次のようなところで保管してください。
 - ・ 平坦で安定しているところ
 - ・ 風通しがよく、湿気が少ないところ
 - ・ 屋根があり、雨つゆや直射日光が当たらないところ
- 保管するときは、別売りのカバーの使用をおすすめします。
カバーは、お買い上げ販売店または取り扱い販売店で購入することができます。
- 長期間保管するときは、バッテリーをはずしてください。はずしたバッテリーは、室内で保管してください。

本書について

- 本書はいつでも見られる場所に保管し、使用中にわからないことや不都合などが生じた場合は、必ず確認してください。
- モビリティを他の人に譲渡するときは、本書も一緒に渡してください。



知識

■ モビリティの誤作動を防ぐために

携帯電話や無線通信機器などを使用するときは、安全な場所で停止し、電源スイッチを OFF にしてください。また、高圧線やテレビ塔などの強い電磁波が発生するところの近くでは、走行は避けてください。

 警告**■モビリティの使用について**

- このモビリティで、公道を走行することはできません。
- このモビリティは 1 人乗りです。お子さまと一緒に乗るなど、2 人以上で乗車しないでください。
- エスカレーターや階段でモビリティを使用したり、運搬したりしないでください。万一バランスを崩すとモビリティが落下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 乗員の重量にくらべてモビリティの重量が軽いため、乗員がバランスを崩すとモビリティも一緒にバランスを崩し、転倒するおそれがあります。
乗車中は常に正しい運転姿勢をとり、体を前後左右に大きく傾けたり、片手や片足で運転したりしないでください。
- 大雨や強風、濃霧などの悪天候のときは、モビリティを使用しないでください。また、夜間など暗い場所でも使用しないでください。
- 次のときは、モビリティを使用しないでください。注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。
 - ・体調がすぐれないとき
 - ・正しい運転姿勢が取れないようなけがをしているとき
 - ・飲酒したとき
 - ・眠気をもよおす薬を飲んだとき
- 走行中に携帯電話を使用しないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。
使用するときは安全な場所に停止し、電源スイッチを OFF にしてください。
- 長時間走行する際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、走行中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に走行を続けず、すみやかに休憩してください。
- 乗員の体重と着衣および荷物の合計が 100kg をこえる場合は、使用しないでください。バランスを崩して転倒しやすくなったり、モビリティが故障・破損したりするおそれがあります。
- 身長が 140cm 未満の方、または 185cm をこえる方は、使用を控えてください。正しい運転姿勢がとれず、運転操作に支障が出ることがあります。
- 裾の長い服はタイヤに巻き込まれるおそれがあるため、着用しないでください。

警告**■モビリティを持ち上げるとき**

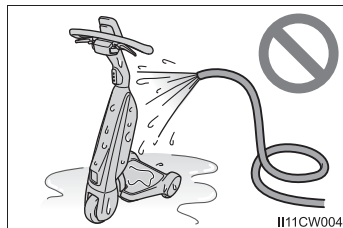
- 2人以上で作業してください。
- ハンドル・ステップ後方以外の箇所を持って持ち上げないでください。モビリティが破損して落下し、思わぬ事故につながる原因になります。特にハンドルプロテクター・状態表示パネルの周辺・タイヤは破損しやすいため、注意してください。

注意**■モビリティを固縛するとき**

- ハンドルまたはステップ以外を使用して固縛すると、モビリティが破損するおそれがあります。
- 固縛に使用するひもやケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。モビリティの損傷につながるおそれがあります。

■モビリティのお手入れについて

- ホースで水をかけて洗わないでください。電子部品を損傷するおそれがあります。



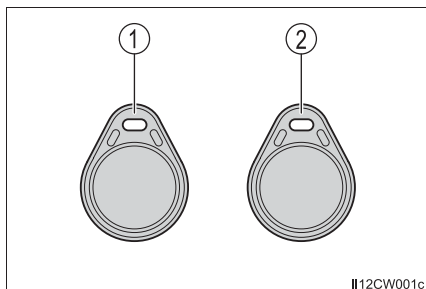
- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次のものは使用しないでください。
 - ・ ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ 洗剤やアルコール分を含んだもの
 - ・ テープ等の粘着性のあるもの

キー

モビリティには、次のキーが付属しています。初めて使用するときは、マスターキーを使用してサブキーをモビリティに登録してください。

キーについて

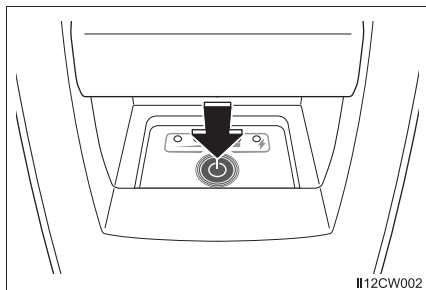
- ① マスターキー（赤色）
- ② サブキー（黒色）



サブキーを登録する

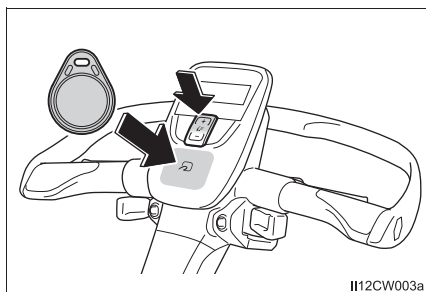
- 1 電源スイッチを ON にする

電源スイッチを約 1 秒押し続けてください。状態表示パネルに認証待ちの表示がされます。

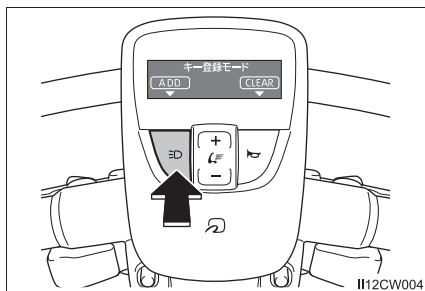


- 2 マスターキーで認証エリアにふれ、すぐに速度切りかえスイッチの + 側を押す

キー登録画面が表示されます。画面が表示されないときは、電源スイッチを OFF にしてもう一度やり直してください。

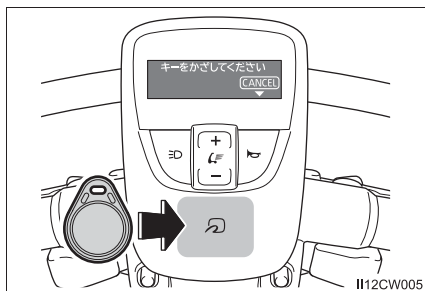


3 [ADD]（前照灯スイッチ）を押す



4 登録したいサブキーで認証エリアにふれる

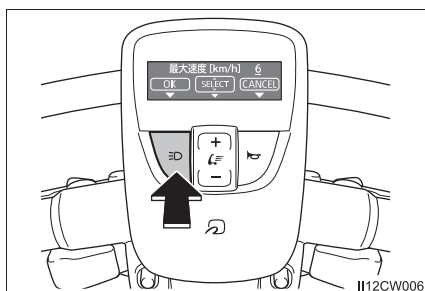
登録操作をキャンセルしたい場合は、[CANCEL]（警鐘スイッチ）を押してください。



5 サブキーで設定できる最大速度を選択し、[OK]（前照灯スイッチ）を押す

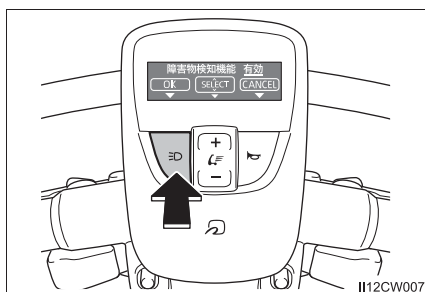
最大速度は、速度切りかえスイッチの+側または-側を押して選択してください。

4, 6, 10km/h から選択できます。



6 周辺検知センサー装着車のみ：障害物検知機能の有効／無効を選択し、[OK]（前照灯スイッチ）を押す

障害物検知機能の有効／無効は、速度切りかえスイッチの+側または-側を押して選択してください。



状態表示パネルに「登録しました」が表示され、キーの登録が完了します。引き続きサブキーを登録・解除する場合は、[TOP]（警鐘スイッチ）を押してください。

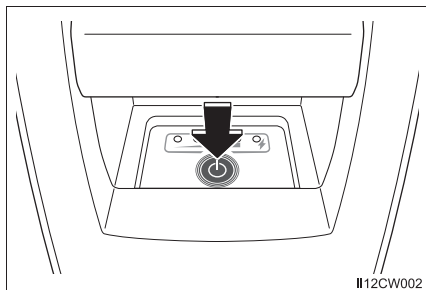
キーの登録を終了する場合は、いったん電源スイッチを OFF にし、再度電源スイッチを ON にしてください。

キーの登録を解除する

■ 登録されているすべてのサブキーを解除する

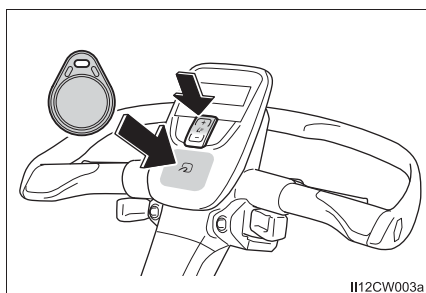
1 電源スイッチを ON にする

電源スイッチを約 1 秒押し続けてください。状態表示パネルに認証待ちの表示がされます。

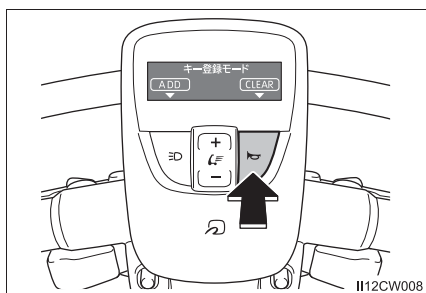


2 マスターキーで認証エリアにふれ、すぐに速度切りかえスイッチの＋側を押す

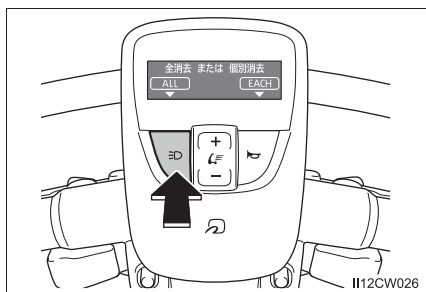
キー登録画面が表示されます。画面が表示されないときは、電源スイッチを OFF にしてもう一度やり直してください。



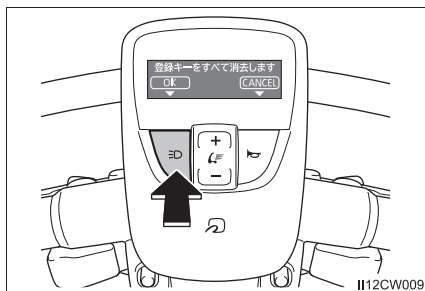
3 [CLEAR] (警鐘スイッチ) を押す



4 [ALL] (前照灯スイッチ) を押す



- 5 [OK] (前照灯スイッチ) を押す
中止する場合は [CANCEL] (警鐘スイッチ) を押してください。

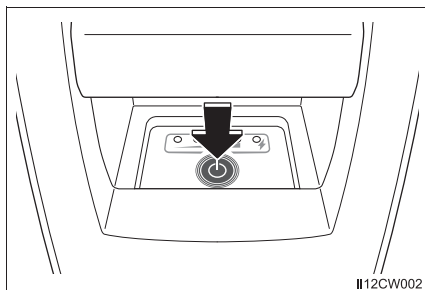


状態表示パネルに「全消去しました」が表示され、登録されているサブキーがすべて解除されます。引き続きサブキーを登録する場合は、[TOP] (警鐘スイッチ) を押してください。

キーの解除を終了する場合は、いったん電源スイッチを OFF にし、再度電源スイッチを ON にしてください。

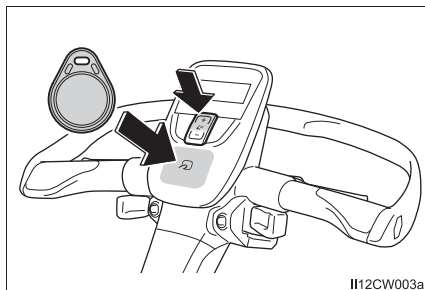
■ 登録されているサブキーを個別に解除する

- 1 電源スイッチを ON にする
電源スイッチを約 1 秒押し続けてください。状態表示パネルに認証待ちの表示がされます。

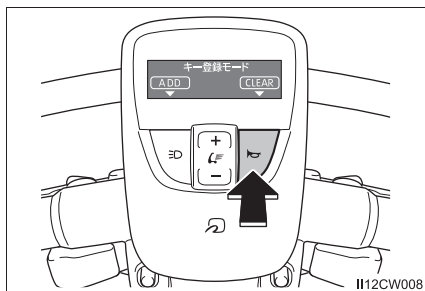


- 2 マスターキーで認証エリアにふれ、すぐに速度切りかえスイッチの + 側を押す

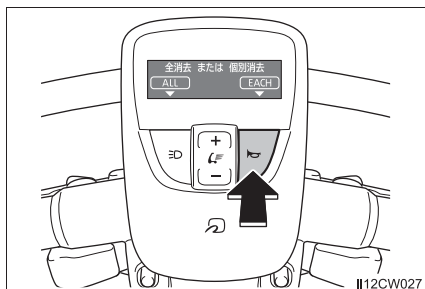
キー登録画面が表示されます。画面が表示されないときは、電源スイッチを OFF にしてもう一度やり直してください。



- 3 [CLEAR] (警鐘スイッチ) を押す



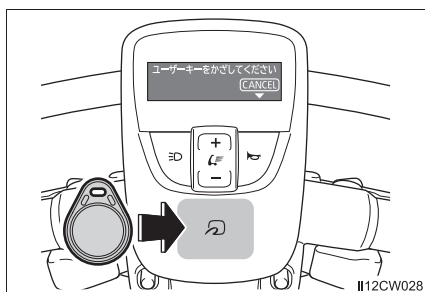
- 4 [EACH] (警鐘スイッチ) を押す



- 5 登録を解除したいサブキーでキー認証エリアにふれる

中止する場合は [CANCEL] (警鐘スイッチ) を押してください。

マスターキーや登録されていないサブキーでふれると、エラーメッセージが表示されます。そのときは [CANCEL] (警鐘スイッチ) を押しもう一度登録されているサブキーでふれてください。



状態表示パネルに「個別消去しました」が表示され、キーの解除が完了します。引き続きサブキーを登録・解除する場合は、[TOP] (警鐘スイッチ) を押してください。

キーの解除を終了する場合は、いったん電源スイッチを OFF にし、再度電源スイッチを ON にしてください。

 知識

■ 登録できるキーの個数

最大 50 個のキーを登録することができます。

キーの追加が必要な場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

■ サブキーを紛失したとき

- 盗難を防ぐため、必要に応じて、マスターキーを使用して登録されているサブキーをすべて解除してください。
- お買い上げ販売店または取り扱い販売店で新しいサブキーを購入することができます。

■ キーの取り扱いについて

モビリティの使用中にキーを紛失すると、モビリティの認証ができず、走行できなくなります。紛失しないよう、使用中は常に携帯してください。

 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 分解しない

■ モビリティの盗難を防ぐために

キーはモビリティと別の場所で保管してください。

■ マスターキーを紛失したとき

マスターキーを紛失した状態で放置すると、モビリティが盗難されたり、不正利用されたりするおそれがあります。マスターキーを紛失した場合は、ただちに買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

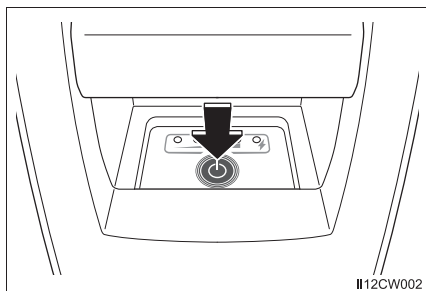
マスターキーの紛失を防ぐため、通常使用時はサブキーの使用をおすすめします。

乗車・降車するときは

モビリティに乗車する

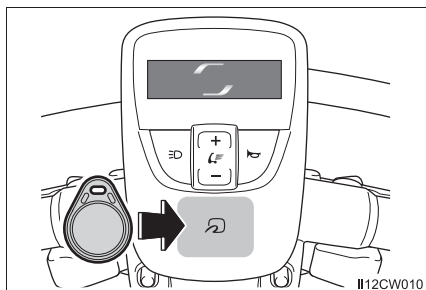
1 電源スイッチを ON にする

電源スイッチを約 1 秒押し続けてください。起動音が鳴り、状態表示パネルに認証待ちの表示がされます。

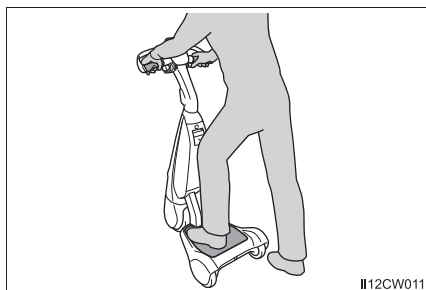


2 キーで認証エリアにふれる

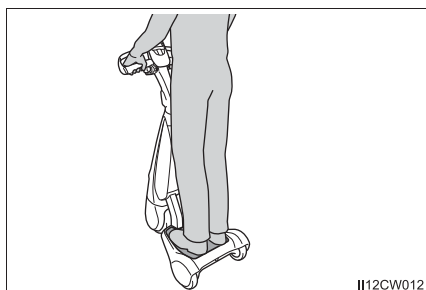
キーが認証され、モビリティが走行できるようになります。



3 左右両方のハンドルをしっかりと握り、ステップに片足を乗せる



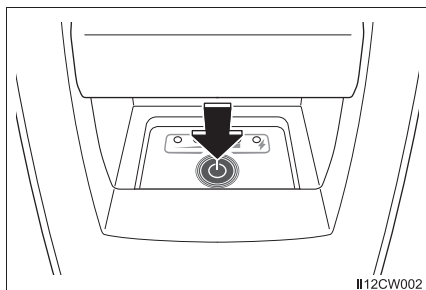
4 ステップに乗せた足へ体重を移動させ、ゆっくりともう片方の足もステップに乗せる



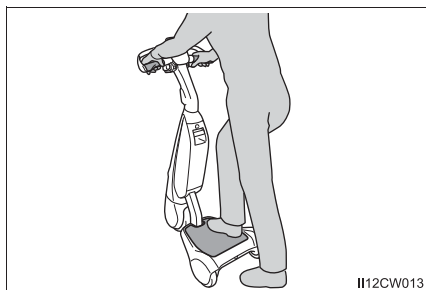
モビリティから降車する

- 1 アクセルレバーまたはバックボタンをもどし、モビリティを完全に停止させる
- 2 ブレーキレバーをしっかりと握り、パーキングブレーキをかける
(→ P. 24)
- 3 電源スイッチを OFF にする

電源スイッチを約 1 秒押し続け、状態表示パネルの表示が消えたことを確認してください。



- 4 左右両方のハンドルをしっかりと握ったまま、片足ずつ降車する
完全に降車するまで、ハンドルから手を離さないでください。



 知識

■ 乗車するとき

状態表示パネルにエラーコードが表示されていないことを確認してください。
(→ P. 32)

■ 認証操作のセキュリティ機能

電源スイッチを ON にしたあと、約 1 分以内にキーが認証されなかった場合、自動で電源スイッチが OFF になります。

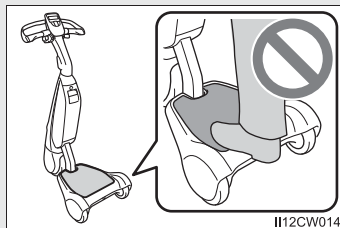
 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 乗降するとき

- 左右両方のハンドルをしっかり握って乗降してください。
このとき、アクセルレバーやバックボタンにふれないでください。モビリティが急に動くおそれがあります。
- できるだけ平坦で安定した場所で乗降してください。
傾斜地や不安定な場所で乗降すると、意図せずモビリティが動き出したり、バランスを崩したりするおそれがあります。
- ステップに片足を置くときは、かかとがステップからはみ出さないようにしてください。
かかとがステップ後部にはみ出した状態で乗車すると、バランスを崩し転倒するおそれがあります。



- 乗車中は普段より目線が高くなるため、頭上や足元の障害物にぶつからないように特に注意してください。
- 降車時は、モビリティが完全に停止していることを確認し、パーキングブレーキをかけて電源スイッチを OFF にしてから降車してください。

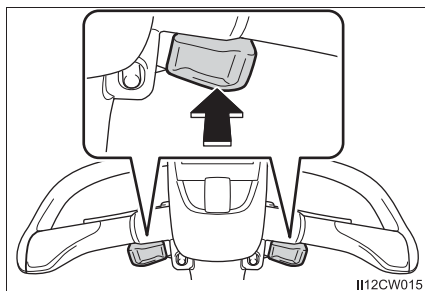
走行するときは

前進方法

- 1 周囲の安全を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する (→ P. 24)
- 3 左右両方のハンドルをしっかり握り、親指でアクセルレバーをゆっくり前に押す

左右どちらのアクセルレバーでも操作することができます。

アクセルレバーの押し加減で、速度を調節することができます。また、アクセルレバーをもどすとブレーキがかかります、モビリティが停止します。



II12CW015

方向転換するときは、体をまっすぐに保ったままハンドルを曲がりたい方向に切ってください。

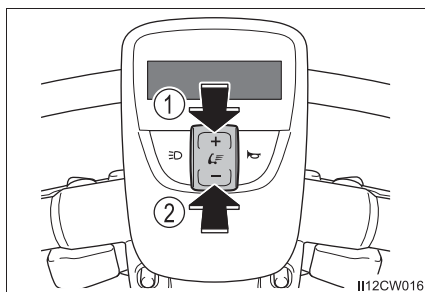
モビリティの速度とハンドルの切れ角によっては、方向転換時にモビリティが自動で減速することがあります。

■ 最大速度の切りかえ

- ① 最大速度を上げるには、速度切りかえスイッチの + 側を押す
- ② 最大速度を下げるには、速度切りかえスイッチの - 側を押す

現在の最大速度が状態表示パネルに表示されます。

最大速度は、2, 3, 4, 5※, 6※, 10※km/hから選択することができます。



II12CW016

※ 認証に使用したキーによっては選択できません。(→ P. 14)

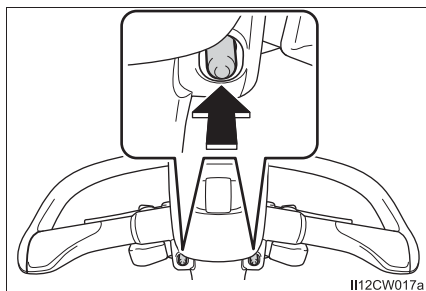
後退方法

- 1 周囲の安全を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する (→ P. 24)

- 3 左右両方のハンドルをしっかり握り、親指でバックボタンを押す
モビリティが後退します。

左右どちらのバックボタンでも操作することができます。

バックボタンをもどすとブレーキがかかり、モビリティが停止します。



II12CW017a

ブレーキについて

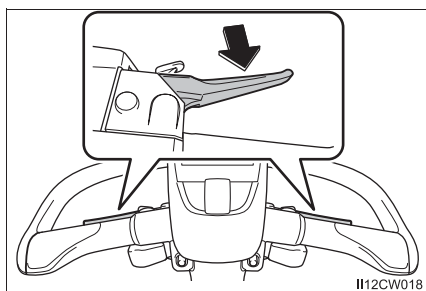
アクセルレバーまたはバックボタンをもどすとブレーキがかかり、モビリティが停止します。通常走行時は、アクセルレバーまたはバックボタンをもどしてモビリティを減速・停止させてください。走行中の緊急時、または停止中に必要に応じて手動ブレーキを使用してください。

■ 手動ブレーキ

ブレーキレバーを手前に引くと、前輪のブレーキがかかります。

左右どちらのブレーキレバーでも、手動ブレーキをかけることができます。

手動ブレーキをかけると、状態表示パネルにブレーキインジケータが表示されます。(→ P. 31)

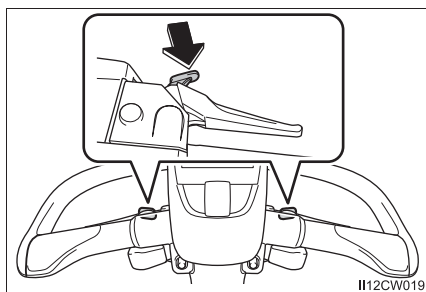


II12CW018

■ パーキングブレーキ

ブレーキレバーを引いたままパーキングブレーキレバーを手前に引くと、手動ブレーキをかけたままにしておくことができます。駐車するときや、長時間停止するときに使用してください。

左右どちらのブレーキレバーでも、パーキングブレーキをかけることができます。



II12CW019

解除するときは、ブレーキレバーをさらに手前に引いてください。

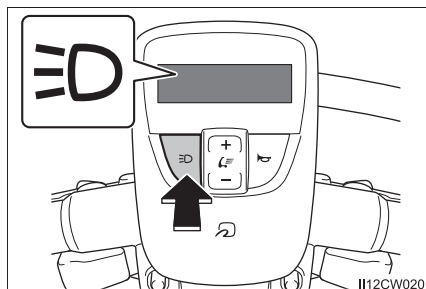
前照灯の使い方

前照灯スイッチを押す

押すたびに、前照灯の ON / OFF が切りかわります。

前照灯が ON のとき、状態表示パネルに前照灯インジケータが表示されます。

電源スイッチを ON にしたとき、前照灯は常に ON になります。通常は前照灯が ON のまま使用してください。

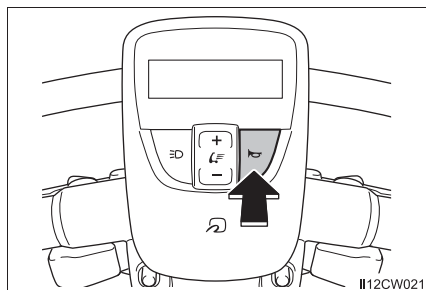


警鐘器の使い方

警鐘スイッチを押す

スイッチを押しているあいだ、警告音が鳴ります。

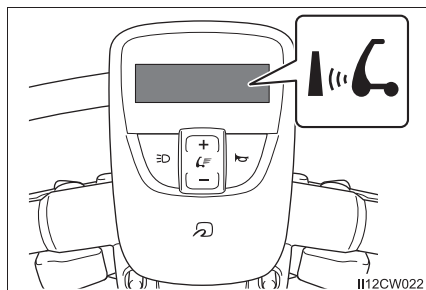
周囲の歩行者などにモビリティの存在を示すときに使用してください。



障害物検知機能★

周辺検知センサーが前方にある人やものなどの障害物を検知し、速度が約 2km/h まで減速する機能です。検知した障害物がなくなると、自動で速度が回復します。

周辺検知センサーが障害物を検知すると、ブザーが鳴り状態表示パネルに警告マークが表示され、モビリティが減速します。ハンドルを操作して障害物を回避してください。



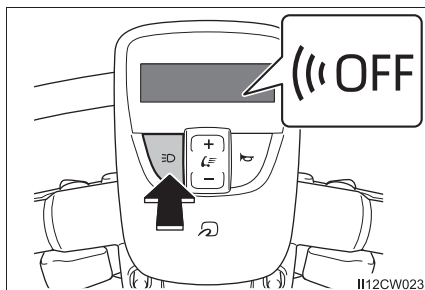
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 障害物検知機能を一時的に OFF にする

前照灯スイッチを押し続ける

状態表示パネルにマークが表示され、障害物検知機能が一時的に OFF になります。マークが表示されたら、スイッチから手を離してください。

もう一度前照灯スイッチを押し続けるとマークの表示が消え、障害物検知機能は ON になります。また約 1 分が経過すると、障害物検知機能は自動で ON になります。



□ 知識

■ 後退時の警告ブザーについて

後退していることを知らせるため、後退時は断続的に警告ブザーが鳴ります。

■ 後退時の速度について

前進時の最大速度にかかわらず、約 1km/h で後退します。

■ 状態表示パネルにブレーキインジケータが表示されているとき

アクセルレバーまたはバックボタンを操作しても、モビリティは動きません。モビリティを動かすときは、手動ブレーキを解除してから再度アクセルレバーまたはバックボタンを操作してください。

■ 障害物検知機能★の作動条件

- 速度約 3km/h 以上で走行しているとき
ただし、最大速度 10km/h を選択した場合、ブザーが鳴り状態表示パネルに警告マークが表示されますが、減速する機能は作動しません。(→ P. 23)
- 周辺検知センサーが前方約 2.5m 以内にある人やものなどの障害物を検知したとき
- 認証に使用したキーに障害物検知機能が設定されているとき (→ P. 14)

! 警告

■ 最大速度 10km/h の使用について

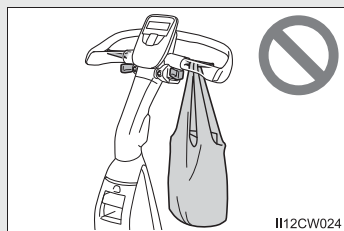
モビリティの操作に十分慣れた方のみ使用してください。

速い速度での走行になるため、速度の調節がしにくくなったり、バランスを崩しやすくなったりします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

！ 警告**■ 走行中の留意事項**

- 他の歩行者や路面状況など、周囲の状況に常に注意を払い、安全に走行できるよう心がけてください。
- 蛇行運転・急発進・急旋回・急停止・急加速を避けてください。
バランスを崩し、転倒するおそれがあります。
- ステップの端に足を乗せた状態で走行すると、バランスを崩しやすくなります。必ずステップ上のバランスが取れる位置に足を置いてください。
- 人にぶつかったり、運転操作の支障になったりするような荷物を持って走行しないでください。
- アクセルレバーやブレーキレバーにものをかけて走行しないでください。急加速や急停止の原因になり危険です。



- 混雑した場所や狭い場所では、特に周囲の状況に注意し、周りとの接触や衝突がないよう十分に速度を落としてください。
また、モビリティでの走行が難しい場合は、無理に走行を続けず、モビリティから降りて押してください。
- 後退するときは体をひねった姿勢となり、バランスを崩しやすくなるため、特に注意してください。
- モビリティが停止しているときは、発進時以外アクセルレバーまたはバックボタンにふれないでください。モビリティが意図せず動き出すおそれがあります。
- アクセルレバーまたはバックボタンをもどしてからモビリティが停止するまでの距離は、走行条件によってかわります。余裕を持って停止できるよう心がけてください。

 警告**■ 方向転換するとき**

方向転換する前に、十分減速してください。

モビリティの速度とハンドル切れ角によっては自動で減速する機能が作動しますが、機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思われ事故につながるおそれがあります。

■ 万一転倒してしまったとき

左右両方のハンドルを持ってモビリティを起こしてください。また、再度走行する前にモビリティの破損や異常がないか、状態表示パネルにエラーコードが表示されていないかを確認してください（→ P. 32）。破損や異常がある場合はモビリティの使用を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

■ 路面について

- 鋭角な段差や、約 2.5cm をこえる段差を走行しないでください。転倒したり、モビリティが破損したりするおそれがあります。

大きな段差を乗り越えるときは、モビリティから降りて持ち上げてください。（→ P. 8）

- ぬれた路面や、砂利・落ち葉などが多い場所ではスリップしやすいため、注意して走行してください。

スリップして動けなくなったときは、モビリティから降りて押してください。

- 次のような場所は走行せず、迂回するかモビリティから降りて押してください。

- ・ 凍結・積雪しているところ
- ・ ぬかるみや深い泥などのあるところ
- ・ 深い水たまりのあるところ
- ・ やわらかい砂地や草地
- ・ ぬれた鉄板の上などのすべりやすいところ
- ・ 転落防止用の柵がない側溝や路肩付近

- 凹凸のある路面では、路面からの衝撃でバランスを崩したり、ハンドルから手が離れたりすることがあります。無理に走行せず、モビリティから降りて押してください。

 警告**■ 斜面での走行について**

- 平坦路の走行にくらべてバランスを崩しやすくなるため、注意して走行してください。
- 約 6° をこえる斜面では、より転倒しやすくなるため、乗降したり走行したりしないでください。
周辺検知センサー装着車のみ：走行中に急斜面に差しかけると、状態表示パネルに警告メッセージが表示され、モビリティの速度によっては自動で減速することがあります。メッセージが表示されたら、ただちに引き返すか、モビリティから降りて押してください。
- 傾斜面を横断したり、斜め走行・蛇行運転や急旋回したりしないでください。バランスを崩し、転倒するおそれがあります。
- 下り斜面に差しかかる前に、十分に減速してください。
減速しないまま下り斜面を走行すると、速度調節が困難になるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 下り斜面での速度調節は、アクセルレバーで行ってください。
手動ブレーキを使用することもできますが、手動ブレーキを使用すると平坦路にくらべて前のめりになりやすく、より転倒しやすくなります。ゆっくりブレーキレバーを握り、徐々にブレーキをかけるようにするなど、十分に注意して使用してください。
- 斜面をうしろ向きで下りないでください。
例えば、上っていた斜面を途中で引き返して下りる必要があるなどの場合は、いったんモビリティから降り、モビリティを押して方向転換したあと、前向きでゆっくり走行してください。
- 上り斜面では、ハンドル側に体重をかけるようにして走行してください。
うしろ側に体重をかけると、バランスを崩し転倒するおそれがあります。また、前輪に体重がかかっていない状態では駆動力が十分に伝わらず、速度が出ないことがあります。
- 斜面で停車しているときは、手動ブレーキを使用してください。
手動ブレーキを使用しないと、状況によってはモビリティが意図せず動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 警告**■ 駐車について**

斜面や段差のある場所など、安定していない場所にモビリティを駐車しないでください。

モビリティが倒れたり、急に動きだしたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 手動ブレーキを使用するとき

走行中にブレーキレバーを強く引くとモビリティが急停止して前のめりの姿勢になり、バランスを崩して転倒するおそれがあります。

急ブレーキにならないような走行を心がけてください。

■ 障害物検知機能★について

障害物検知機能は、周辺検知センサーで進行方向の障害物を検知し、衝突の回避が支援できる速度まで減速する機能です。障害物の手前で停止したり、障害物を自動で回避したりする機能ではありません。

機能を過信しないでください。機能を過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 障害物の状態や、モビリティの状況によっては、機能が作動しないことがあります。
- 周辺検知センサーに水滴や汚れが付いていたり、逆光などで強い光がセンサーに当たったりしている場合、障害物がないのに機能が作動することがあります。

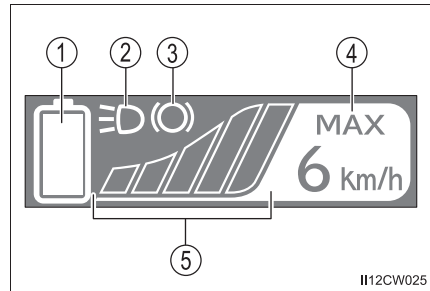
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

状態表示パネルの見方

ディスプレイの表示

■ 走行時の表示

- ① バッテリー残量表示
- ② 前照灯インジケーター
前照灯が ON のときに表示されます。(→ P. 25)
- ③ ブレーキインジケーター
手動ブレーキがかかっているときに表示されます。(→ P. 24)
- ④ 最大速度 (→ P. 23)
- ⑤ 速度メーター



II12CW025

■ オドメーター・トリップメーター表示

モビリティが停止している状態で速度切りかえスイッチの + 側を押し続けると、オドメーター・トリップメーター表示に切りかわります。

表示中にアクセルレバーを操作するか、再度速度切りかえスイッチの + 側を押し続けると、前の表示にもどります。

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A /トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。速度切りかえスイッチの + 側を短く押すたびに、トリップ A・トリップ B の表示が切りかわります。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に、速度切りかえスイッチの - 側をリセットされるまで押し続けます。

■ エラーコード表示

モビリティに異常が発生すると、エラーコードが表示されます。次の表に従って対処してください。

エラーコード	対処方法
E00 E10 ~ E18 E30 ~ E54 E61 ~ E63 E66 E80 ~ E83	いったん電源スイッチを OFF にし、再度電源スイッチを ON にしてください。 再度同じエラーコードが表示される場合は、モビリティが故障しているおそれがあります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。
E20	バッテリーの残量を確認してください。残量がない場合はただちに充電してください。(→ P. 33)

注意

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合があります。

バッテリーの充電方法

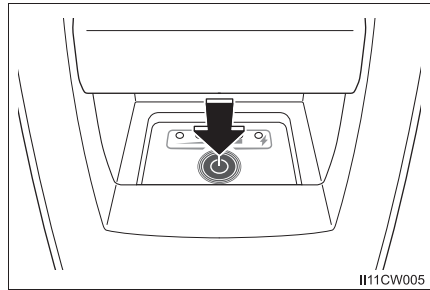
バッテリーの充電は、モビリティからバッテリーを取りはずし、専用の充電器を使用して屋内で行ってください。

初めて使用するときや、1ヶ月以上使用していないときは、モビリティを使用する前に必ずバッテリーを充電してください。

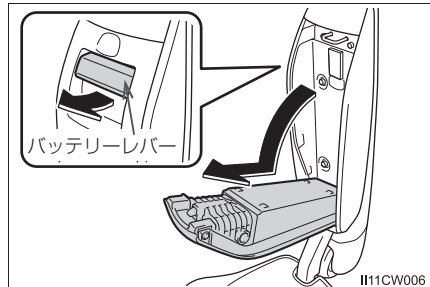
バッテリーを取りはずす

- 1 電源スイッチが ON のときは、電源スイッチを OFF にする

電源スイッチを約 1 秒押し続け、状態表示パネルの表示が消えたことを確認してください。

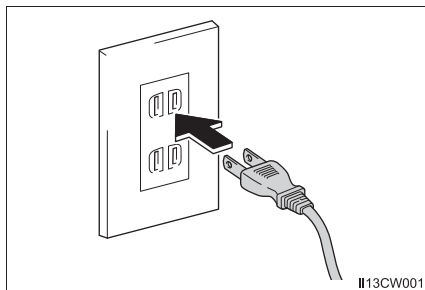


- 2 バッテリーレバーを引き上げてバッテリーを手前に倒し、引き抜く



充電する

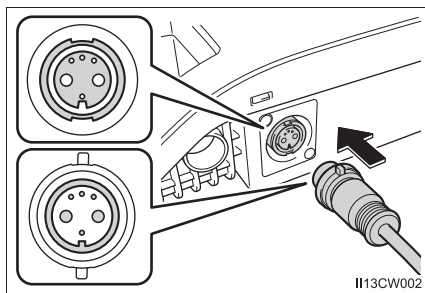
- 1 バッテリーを取りはずす
- 2 充電器のプラグをコンセントに挿し込む



- 3 充電器の充電コネクタをバッテリーのコネクタに接続する

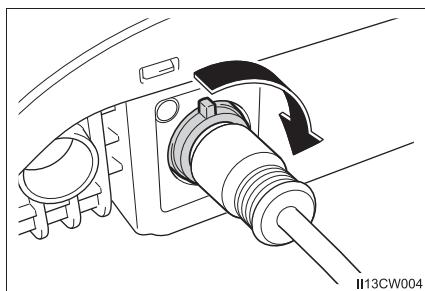
自動で充電が始まります。

充電コネクタとバッテリーのコネクタの形状を確認し、充電コネクタのロックの突起が、図のように上下の位置になるようにして接続してください。



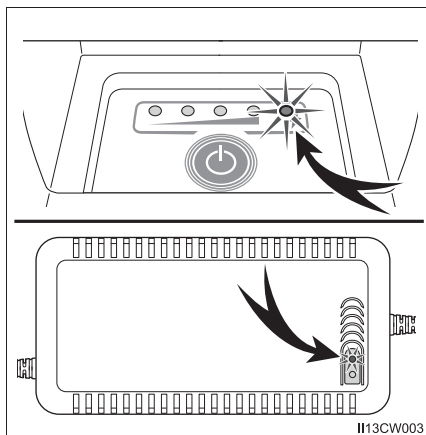
- 4 充電コネクタをロックする

充電コネクタのロックを時計まわりにまわしてください。充電コネクタがバッテリーから抜けなくなります。

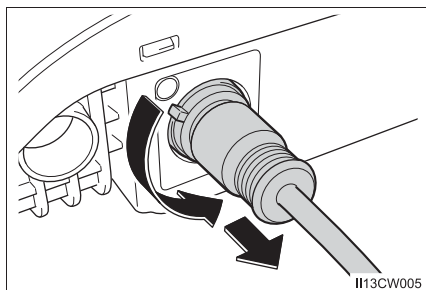


5 充電が開始したことを確認する

バッテリーの充電状態表示LEDが橙色に点灯し、充電器のインジケータが赤色に点灯していることを確認してください。

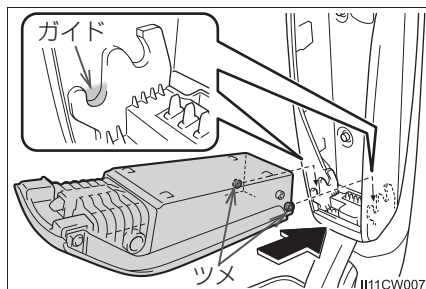
**6** 充電を終了する場合は、充電コネクタのロックを解除し、バッテリーから取りはずす

充電コネクタのロックを反時計まわりにまわし、ロックの突起が上下の位置になるようにして取りはずしてください。

**7** 充電器のプラグをコンセントから取りはずす

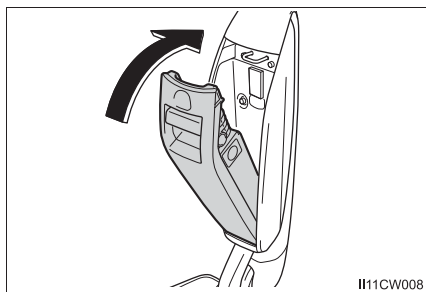
バッテリーを取り付ける

- 1 モビリティ側のガイドにバッテリー下部のツメを合わせながら、ゆっくりとバッテリーを挿し込む



- 2 バッテリーの上部を、“カチッ”と音がするまで押し込み、バッテリーをロックする

取り付け後は、バッテリーが確実に固定されているか確認してください。



知識

■ バッテリーの種類

充電式リチウムイオンバッテリーを搭載しています。

■ バッテリーの特徴

リチウムイオンバッテリーは、正しく使用していても月日が経つと徐々に性能が低下していきます。新品時にくらべ、走行できる距離は徐々に短くなっていきます。

また冬季など気温が低いときは、バッテリー残量が早く減る傾向がありますが、異常ではありません。

■ バッテリー交換時期の目安

バッテリーには寿命があります。寿命はモビリティの使い方、走行条件により異なります。

同じような使い方をしていても、1回の充電で走行できる距離が短くなった場合（バッテリーが新品のときの半分程度）は、バッテリーの交換が必要です。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

■ バッテリーの廃棄

バッテリーのほとんどの素材がリサイクル可能です。使用済みのバッテリーの廃棄については、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

■ バッテリー残量の確認方法

バッテリーがモビリティからはずされた状態では、電源スイッチを約 1 秒押し続けると電池残量表示 LED が約 5 秒間点灯し、残量の目安を確認できます。

バッテリーがモビリティに取り付けられた状態では、電源スイッチを ON にすると、電池残量表示 LED で残量の目安を確認できます。また、モビリティが走行可能な状態では、状態表示パネルにバッテリー残量が表示されます。(→ P. 31)

■ バッテリー残量の目安について

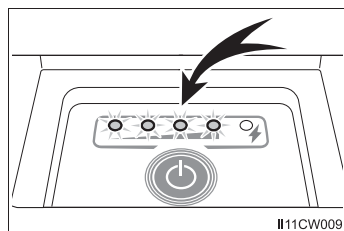
バッテリーの残量に応じて、電池残量表示 LED が次のように点灯します。

4 つ点灯：電池残量が約 75 ～ 100%

3 つ点灯：電池残量が約 50 ～ 75%

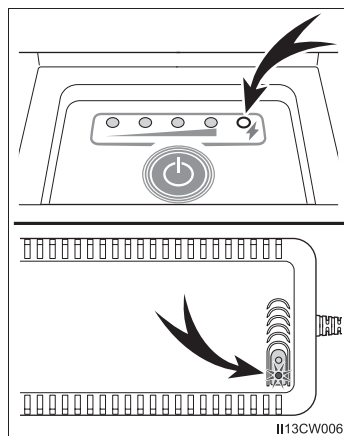
2 つ点灯：電池残量が約 25 ～ 50%

1 つ点灯：電池残量が約 1 ～ 25%



■ 充電完了の確認方法

バッテリーの充電状態表示 LED が消灯し、充電器のインジケーターが緑色に点灯していることを確認してください。



■ 充電時間の目安

バッテリーが空の状態から約 2 時間半で満充電になります。

バッテリーの温度などの条件により、充電完了までに必要な時間はかわります。

■ 充電に適した場所

非常に暑い場所または寒い場所では、正しく充電できないことがあります。次のような充電に適した場所で充電してください。

- 屋内
- 気温約 10 ～ 40 ℃
- 風通しのよいところ
- 直射日光のあたらないところ

■ 充電器のプラグをコンセントに挿し込むとき

火花が発生することがありますが、異常ではありません。

■ 充電中の留意事項

- 充電中は充電器とバッテリーが温かくなりますが、異常ではありません。
- テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
その場合は、場所をかえて充電してください。

■ 充電器を接続しても充電が始まらないとき

充電器のインジケーターを確認し、次のように対処してください。

- インジケーターが緑色にゆっくり点滅しているとき
バッテリーを低温の場所に放置していたなど、バッテリーの温度が低くなっているおそれがあります。いったん充電器をはずし、バッテリーの温度が上がるまでお待ちください。
- インジケーターが緑色に速く点滅しているとき
走行直後など、バッテリーの温度が高くなっているおそれがあります。いったん充電器をはずし、バッテリーの温度が下がるまでお待ちください。
- インジケーターが赤色と緑色に交互に点滅しているとき
充電異常のおそれがあります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

 警告

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、感電したり、発熱・発火して火災になったり、バッテリーが破裂したりするなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バッテリーについて

- 指定されたもの以外のバッテリーを使用したり、モビリティのバッテリーを他の機器で使用したりしない
- 充電するときは、専用の充電器を使用する
- 火中に投入したり、加熱したりしない
- 分解したり、改造したりしない
- 釘などの先のとがったものを刺したり、衝撃を与えたりしない
- 落下させない
- 端子部分に金属製のものを接触させない
- 火気の近くや、高温になるところ、直射日光のあたるところで使用したり、充電したり、放置したりしない
- 水を入れたり、水中に投入したりしない
バッテリーが水につかった場合はただちに使用を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。
- 傷が付いた状態で使用しない
傷が付いているときは、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。
- 液体の付着やもれがある場合は、絶対にさわらない
電解液が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 電解液がもれている場合は、近付かない
万一バッテリーが破損しても、内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

■バッテリーを取り付けるとき

- モビリティのバッテリー取り付け部分がぬれていないことを確認してください。
ぬれているときは、乾いた布でふき取ってからバッテリーを取り付けてください。
- 取り付け後は、バッテリーが確実に固定されているか確認してください。
確実に固定されていないと、走行中にバッテリーがはずれて落下し、けがをするおそれがあります。

 警告**■充電するとき**

- 指定された充電器およびバッテリーを使用してください。
- 乳幼児の手の届く場所やペットがいる場所では、充電しないでください。
- 水がかかる場所や湿気の多い場所、ほこりの多い場所で充電しないでください。
- 平坦な安定している場所で充電してください。
机や台の上で充電する場合、充電器やバッテリーが落下しないように注意してください。
- バッテリーが倒れて衝撃を受けるおそれがあるため、充電中はできるだけバッテリーを寝かせてください。
- 充電前に充電器のプラグ・充電コネクタやバッテリーのコネクタに変形・破損・腐食がないか、ほこり等の異物が付着していないか確認してください。変形・破損・腐食がある場合は、充電しないでください。また、ほこり等の異物が付着している場合は、プラグや充電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- ぬれた手で充電しないでください。また充電器やバッテリーに水分が付着している場合は、乾いた布でふき取るなど、よく乾かしてから充電してください。
- 充電コネクタをバッテリーに挿し込むときは、手や指を挟まないように注意してください。
- 充電コネクタの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしないでください。
- タコ足配線になっているなど、定められた容量をこえた配線器具を使用して充電しないでください。
- プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込んでください。
- 充電器のコードを束ねたり巻いたりした状態で充電しないでください。
- 充電器・充電器のコード・バッテリーにつまづかないように注意してください。
- 充電中は、充電器とバッテリーを布などで覆わないでください。
- 充電中は、引火のおそれがあるものを近付けないでください。
- 充電中に異音・異臭がしたり、煙が発生したりするなどの異常を感じたら、ただちにプラグをコンセントから抜いて充電を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

 警告**■ 充電器について**

- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水でぬらしたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 指定されたバッテリー以外を充電しないでください。
- 屋外で使用しないでください。
- 充電器にコードを巻き付けて保管しないでください。
- 水がかかる場所や湿気の多い場所、ほこりの多い場所で保管しないでください。

■ 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

 注意**■ バッテリーの故障を防ぐために**

- バッテリーが空の状態で放置しないでください。バッテリーが故障する原因になります。使用していなくても 3ヶ月に 1 回、満充電まで充電してください。
- バッテリーを保管するときは、気温が約0～40℃の屋内で保管してください。

■ プラグや充電コネクタを抜くとき

プラグまたは充電コネクタを持って抜いてください。コードを引っ張って抜くと、コードやプラグ・充電コネクタが破損するおそれがあります。

点検

2

2-1. 点検	
点検の必要性.....	44
点検項目	45
2-2. 使用前点検	
使用前点検のしかた	48
使用前点検の記録	58
2-3. 定期点検	
定期点検のしかた	59
定期点検の記録	64

点検の必要性

モビリティは多くの部品からなり、使用中に各部が摩耗したり、劣化したりします。

モビリティの点検には、毎日の使用前に実施する使用前点検と、購入から 1 年ごとに実施する定期点検があります。

安全に、未永くモビリティを使用するため、点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施してください。

点検項目

点検項目	判定基準	使用前点検	定期点検 (1年ごと)
バッテリーの取り付け状態	・ バッテリーを取り付けた状態でたつきがないこと ・ ロックがしっかりかかっていること	○	○
バッテリーの取りはずし	バッテリーを取りはずす際に、バッテリーレバーやツメに引っかかりがないこと	○	○
ボデーパネルの状態	著しい傷や破損がないこと	○	○
タイヤの状態	亀裂・損傷・異常な摩耗がないこと	○	○
ブレーキレバーの引き残り代	ブレーキレバーを引いてブレーキが作動した状態（モビリティを押しても動かない状態）で、ハンドルとブレーキレバーにすき間があること（参考値：すき間 5mm 以上）	○	○
パーキングブレーキレバーの作動	パーキングブレーキをかけ、ブレーキレバーが保持されること	○	○
アクセルレバーの状態	引っかかりやもどり不良がないこと	○	○
モビリティの起動状態	・ 状態表示パネルにエラーコードが表示されないこと ・ 異音がないこと	○	○

点検項目	判定基準	使用前点検	定期点検 (1 年ごと)
ハンドルの状態	・ がたつき・異音がないこと ・ 電源スイッチを ON にしてキーを認証させ、ハンドルを両端まで切って、状態表示パネルにエラーコードが表示されないこと	○	○
警鐘器の作動	警告音が鳴ること	○	○
速度切りかえスイッチの作動	最大速度が切りかわること	○	○
ブレーキオーバーライドの作動	ブレーキレバーを引き、ブレーキインジケータが表示されている状態で、アクセルレバーまたはバックボタンを押したとき、モビリティが発進しないこと	○	○
前照灯の作動	点灯すること	○	○
バックボタンの作動	警告ブザーが鳴りながら後退し、離すと停止すること	○	○
手動ブレーキの効き具合	手動ブレーキの効きが十分であること	○	
	6km/h で走行し、1.5m 以内で停止できること		○
加速の状態	・ なめらかに加速すること ・ 走行時に突然止まらないこと ・ 走行時、状態表示パネルにエラーコードが表示されないこと	○	○
前輪（モーター）の状態	走行して異音がないこと	○	○
バッテリーの状態	外観の損傷・端子の変形・腐食・電解液の漏れがないこと		○

点検項目	判定基準	使用前点検	定期点検 (1 年ごと)
ブレーキワイヤーの状態	ブレーキレバーを引き、 ブレーキレバー側ワイヤーにほつれがないこと		○
パーキングブレーキの効き具合	10° の斜面でモビリティを停止させ、パーキングブレーキをかけ、モビリティの停止状態が保持されること		○
旋回速度抑制機能の作動	最大速度の設定が4km/hで、ハンドルをいっぱい切った状態でアクセルレバーをいちばん奥まで操作しその場を旋回したとき、速度メーターの表示が4/5目盛りになり最高速にならないこと		○
傾斜検知センサー★の作動	最大速度の設定が2km/hで、前輪を約10cm以上浮かせてアクセルレバーを操作したとき、状態表示パネルに「急斜面 危険」が表示されること		○
障害物検知機能★の作動	最大速度の設定が3km/hで、壁から約1mの距離で前輪を浮かせてアクセルレバーを操作したとき、状態表示パネルに警告マークが表示されること		○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

使用前点検のしかた

点検はこの項目に記載されている使用前点検のしかたに従って行い、使用前点検記録（→ P. 58）に結果を記入します。

点検の結果、調整などの整備が必要な場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

使用前点検時のご注意

安全にご使用いただくため、ご使用前に必ず実施してください。

安全のためにまず読んでください

■ 点検の準備・場所

- 人や交通のさまたげになる場所では、絶対に行わないでください。周囲の安全を十分に確認しないと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 傾斜した場所では行わないでください。モビリティが動きけがをするおそれがあります。
- パーキングブレーキをかけてから行ってください。パーキングブレーキがかけていないとモビリティが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
走行の際は、パーキングブレーキを解除してください。

点検項目と点検順序

点検順序に従って実施していただくと効率よく点検できます。

■ バッテリー関連

- 1 バッテリーの取り付け状態／取りはずし



■ モビリティのまわり

- 2 ボデーパネルの状態
- 3 タイヤの状態



■ ハンドルまわり

- 4 ブレーキレバーの引き残り代
- 5 パーキングブレーキレバーの作動
- 6 アクセルレバーの状態



■ 起動して

- 7 モビリティの起動状態
- 8 ハンドルの状態
- 9 警鐘器の作動
- 10 速度切りかえスイッチの作動
- 11 ブレーキオーバーライドの作動
- 12 前照灯の作動



■ 走行して

- 13 バックボタンの作動
- 14 手動ブレーキの効き具合
- 15 加速の状態／前輪（モーター）の状態

ご不明な点はお買い上げ販売店または取り扱い販売店にお問い合わせください。

使用前点検のしかた

点検は電源スイッチを OFF にしてから行ってください。

■ バッテリー関連

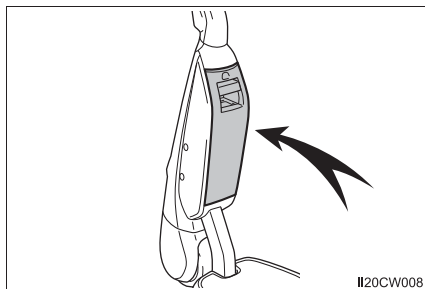
- 1 バッテリーの取り付け状態／
取りはずし

バッテリーを取り付ける
(→ P. 36)

ロックがしっかりかかっていて、
がたつきがないことを点検する

使用後はバッテリーを取りはずす
(→ P. 33)

バッテリーレバーやツメに引っかかりがなく取りはずせることを点検する

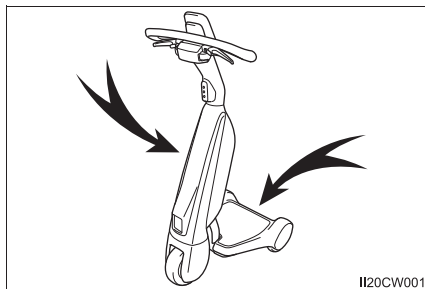


II20CW008

■ モビリティのまわり

- 2 ボデーパネルの状態

ボデーパネルに著しい傷や亀裂がないか、
全体を目視で点検する



II20CW001

知識

■ モビリティのお手入れ

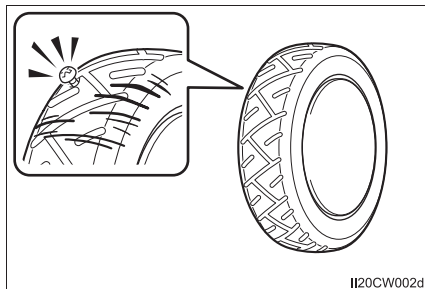
→ P. 11

警告

著しい傷や亀裂にさわるとけがをするおそれがあります。
ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。

3 タイヤの状態

- タイヤの側面や、接地部全周に著しい傷や亀裂がないか点検する
- タイヤ全周にわたり釘・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないか点検する



大きな傷や亀裂がある場合は、交換が必要です。ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。

- タイヤ接地面が異常に摩耗していないか点検する

異常に摩耗していたらタイヤの交換が必要です。ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。

警告

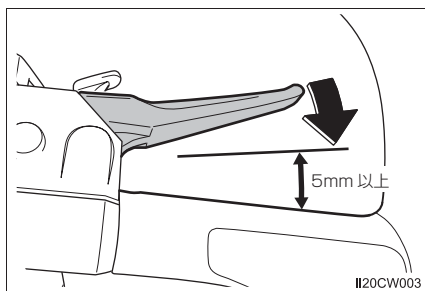
- タイヤ付近に手を挟まれないように注意してください。
- 異常に摩耗したタイヤで走行するとスリップ事故など思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ハンドルまわり

- 4** ブレーキレバーの引き残り代
ブレーキレバーを引いてブレーキが作動した状態（モビリティを押しても動かない状態）で、ハンドルとブレーキレバーにすき間があるかを点検する（参考値：すき間 5mm 以上）

左右のブレーキレバーを、片方ずつ点検します。

ブレーキレバーを引く力が強すぎるとすき間がなくなることがあります。



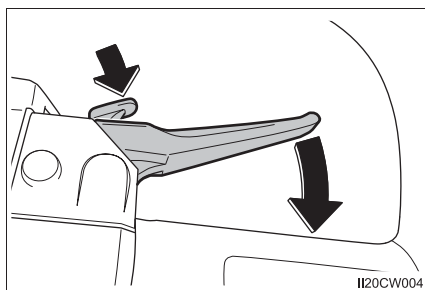
⚠ 警告

ブレーキワイヤーは消耗品です。ワイヤーの損傷や取り付けの緩みがあると、ブレーキの効き具合が悪くなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 5** パーキングブレーキレバーの作動

【ロック】

ブレーキレバーをしっかりと握り、人差し指でパーキングブレーキレバーを手前に引いてパーキングブレーキがかかることを点検する

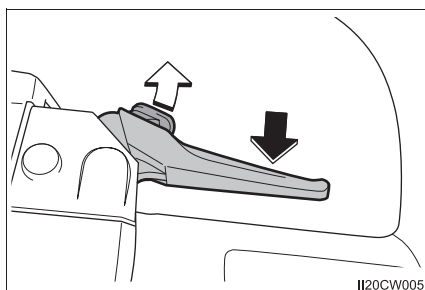


左右のパーキングブレーキレバーを、片方ずつ点検します。

【ロック解除】

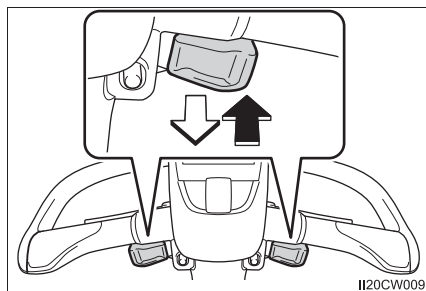
ブレーキレバーをしっかりと握り、パーキングブレーキレバーがもとの位置にもどり、パーキングブレーキが解除されることを点検する

左右のパーキングブレーキレバーを、片方ずつ点検します。



6 アクセルレバーの状態

アクセルレバーをゆっくり押したとき／もどしたとき、引っかかりがないことや、停止位置までもどることを点検する



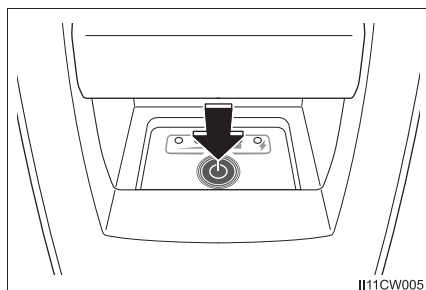
II20CW009

■ 起動して

7 モビリティの起動状態

電源スイッチを ON にする

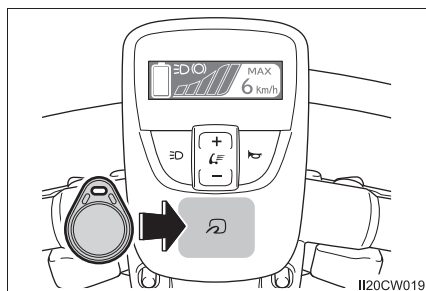
起動音が鳴り、状態表示パネルに認証待ちの表示がされます。



II11CW005

キーで認証エリアにふれてモビリティを起動し、異音がないか、モビリティの起動状態は良いかを点検する

状態表示パネルにエラーコード（→ P. 32）が表示されていないか確認します。



II20CW019

知識

- 電源スイッチをONにしたあと、キーで認証エリアにふれずに約1分が経過すると自動で電源スイッチがOFFになります。
- 電源スイッチがOFFになると、状態表示パネルに「OFF」が表示されます。

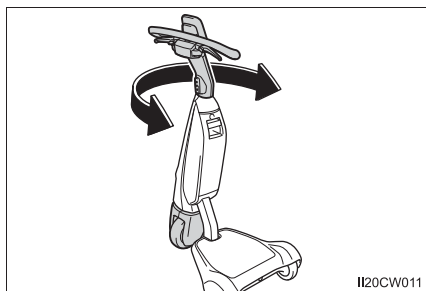
⚠ 注意

異音がある場合は、ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。その状態で使用するとモビリティを損傷させるおそれがあります。

8 ハンドルの状態

ハンドルを左右に止まるまでいっぱいに切ったときに、スムーズに動くか、異音がないか、緩みやがたつきがないか点検する

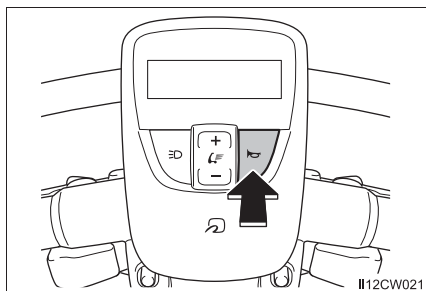
状態表示パネルにエラーコード（→ P. 32）が表示されないことを確認します。



II20CW011

9 警鐘器の作動

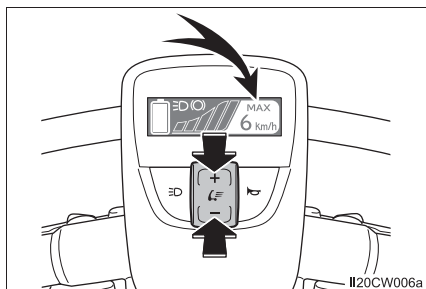
警鐘スイッチを押して、警告音が鳴るか点検する



II12CW021

10 速度切りかえスイッチの作動

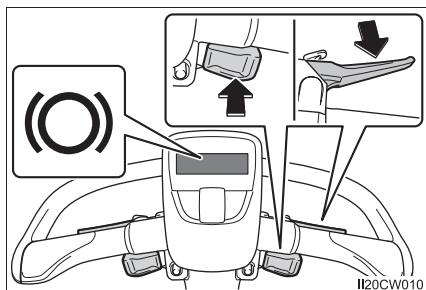
停車状態で速度切りかえスイッチの+側/-側を押して、状態表示パネルの最大速度表示が切りかわることを点検する



II20CW006a

11 ブレーキオーバーライドの作動

ブレーキレバーを引き、ブレーキインジケータが表示されている状態で、アクセルレバーまたはバックボタンを押したとき、モビリティが発進しないことを点検する



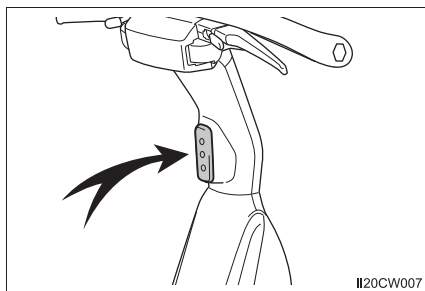
II20CW010

12 前照灯の作動

前照灯が点灯しているか目視で点検する

電源スイッチを ON にすると、自動で前照灯が点灯します。

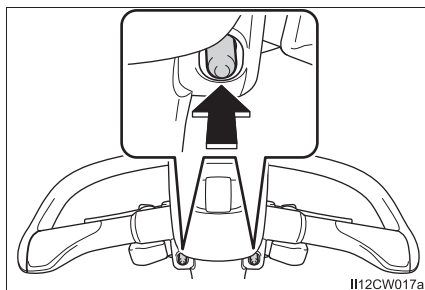
点灯時は、状態表示パネルに前照灯インジケータが表示されます。



■ 走行して

13 バックボタンの作動

バックボタンを押し続け、警告ブザーが鳴りながら後退し、バックボタンを離すことで停止することを点検する



⚠ 警告

周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。

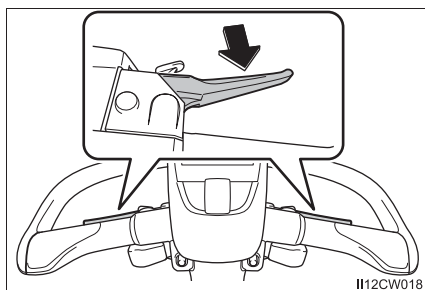
14 手動ブレーキの効き具合

走行中にブレーキレバーを引き、ブレーキの効きが十分か点検する

手動ブレーキをかけると、状態表示パネルにブレーキインジケータが表示されます。(→ P. 31)

左右のブレーキレバーを、片方ずつ点検します。

手動ブレーキの効き具合が悪い場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。

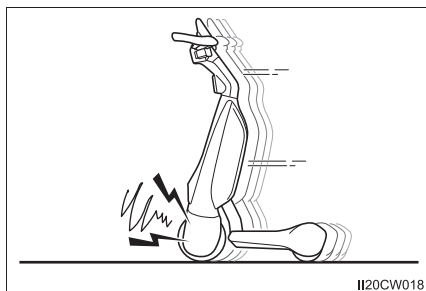


⚠ 警告

周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。

15 加速の状態／前輪（モーター）の状態

- アクセルレバーを操作し、なめらかに加速するか、走行時に突然止まらないか点検する
- 走行時、異音がないか点検する
- 走行時、状態表示パネルにエラーコード（→ P. 32）が表示されていないかを点検する



エラーコードがひんばんに表示される場合は、異常が考えられます。ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。

警告

- 周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。
- 加速の状態が著しく悪い場合は、その状態で使用するとモビリティを損傷させるおそれがあります。ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。

使用前点検の記録

実施者（お客様等）が、「使用前点検記録」に記入します。

使用前点検記録

チェック記号

点検良好	レ
交換	×
修理	△
調整	A
清掃	C

		使用前点検項目											
		バッテリーの取り付け状態／取りはずし	ボデーパネルの状態	タイヤの状態	ブレーキレバーの引き残り代	パークレバーの状態	アクセルレバーの状態	モビリティの起動状態	ハンドルの状態	警鐘器の作動	速度切りかえスイッチの作動	ブレーキオーバーライドの作動	前照灯の作動
実施日	年 月 日												
	年 月 日												
	年 月 日												
	年 月 日												
	年 月 日												
	年 月 日												
	年 月 日												

加速の状態／前輪（モーター）の状態

手動ブレーキの効き具合

バックボタンの作動

前照灯の作動

ブレーキオーバーライドの作動

速度切りかえスイッチの作動

警鐘器の作動

ハンドルの状態

モビリティの起動状態

アクセルレバーの状態

パークレバーの状態

ブレーキレバーの引き残り代

タイヤの状態

ボデーパネルの状態

バッテリーの取り付け状態／取りはずし

定期点検のしかた

点検は、使用前点検のしかた（→ P. 48）と、この項目に記載されている定期点検のしかたに従って行い、定期点検記録（→ P. 64）に結果を記入します。

点検の結果、調整などの整備が必要な場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

なお、定期点検は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店でも行えます。ぜひご利用ください。

2

点検

定期点検時のご注意

安全にご使用いただくため、1年ごとに必ず実施してください。

安全のためにまず読んでください

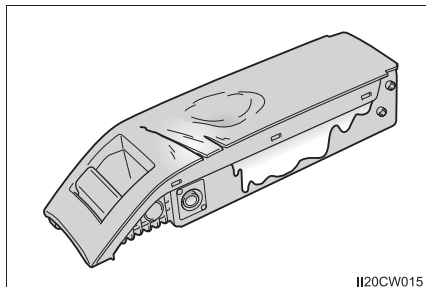
■ 点検の準備・場所

- 人や交通のさまたげになる場所では、絶対に行わないでください。周囲の安全を十分に確認しないと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 傾斜した場所では行わないでください。モビリティが動きけがをするおそれがあります。
- パーキングブレーキをかけてから行ってください。パーキングブレーキがかけられていないとモビリティが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
走行の際は、パーキングブレーキを解除してください。

定期点検のしかた

1 バッテリーの状態

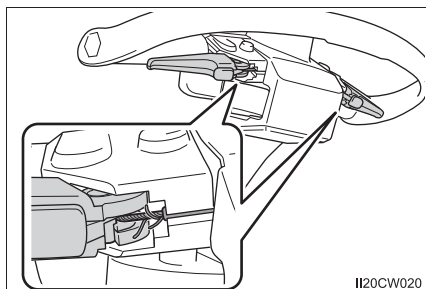
外観の損傷・端子の変形・腐食・電解液の漏れがないことを点検する



II20CW015

2 ブレーキワイヤーの状態

ブレーキレバーを引き、左右両方のブレーキレバー側ワイヤーにほつれがないことを点検する

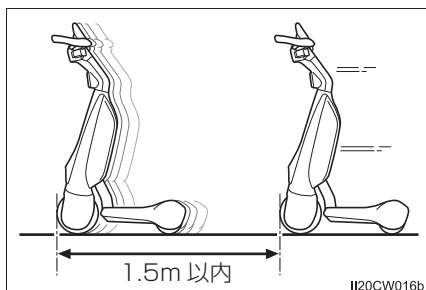


II20CW020

3 手動ブレーキの効き具合

6km/h で走行し、1.5m 以内で停止できることを点検する

左右のブレーキレバーを、片方ずつ点検します。



II20CW016b

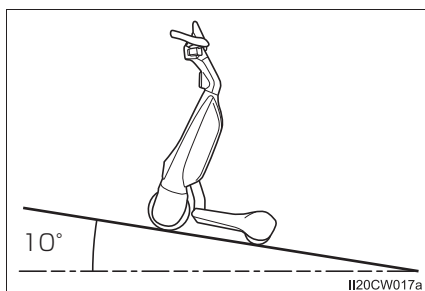
警告

- 周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。
- ハンドルを直進状態にして、正しい運転姿勢で点検してください。
- 走行中にブレーキレバーを強く引くとモビリティが急停止して前のめりの姿勢になり、バランスを崩して転倒するおそれがあります。
急ブレーキにならないようにブレーキレバーを引いてください。

4 パーキングブレーキの効き具合

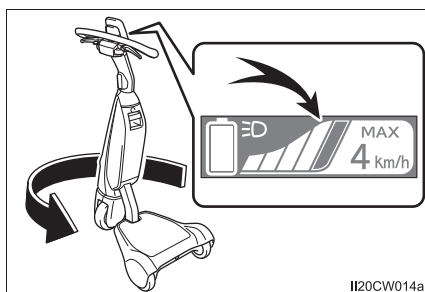
10° の斜面でモビリティを停止させ、パーキングブレーキをかけ、モビリティの停止状態が保持されることを点検する

左右のパーキングブレーキレバーを、片方ずつ点検します。



5 旋回速度抑制機能の作動

- 最大速度4km/hに設定する
- ハンドルをいっぱいに切った状態でアクセルレバーをいちばん奥まで操作しその場を旋回したとき、速度メーターの表示が4/5目盛りになり最高速にならないことを点検する



警告

- 周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。
- ハンドルをしっかり握り、正しい運転姿勢で点検してください。
バランスを崩し、転倒するおそれがあります。

6 傾斜検知センサー★の作動

- 最大速度を2km/hに設定する
- 後輪に木片などで輪止めをする
- 輪止めを足で押さえながらハンドルを持ち、前輪を約10cm以上浮かせる
- アクセルレバーを操作したとき、状態表示パネルに「急斜面 危険」が表示されることを確認する

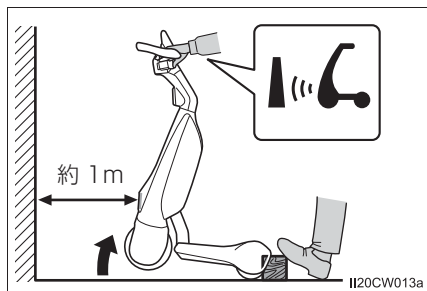
**警告**

- 周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。
- 回転している前輪に巻き込まれないように注意してください。
- 1人で点検してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

7 障害物検知機能★の作動

- 最大速度を3km/hに設定する
- 後輪に木片などで輪止めをする
- 壁から約1mの距離で、輪止めを足で押さえながらハンドルを持ち、前輪を5cm程度浮かせる
- アクセルレバーを操作したとき、状態表示パネルに警告マークが表示されることを確認する

**警告**

- 周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。
- 回転している前輪に巻き込まれないように注意してください。
- 1人で点検してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

定期点検の記録

実施者（お客様または点検を実施した販売店等）が、「定期点検記録」に記入します。

定期点検記録

チェック記号

点検良好	レ
交換	×
修理	△
調整	A
清掃	C

実施日	年 月 日
実施者氏名	

定期点検項目

障害物検知機能★の作動	傾斜検知センサー★の作動	旋回速度抑制機能の作動	パーキングブレーキの効き具合	手動ブレーキの効き具合	ブレーキワイヤーの状態	バッテリーの状態	加速の状態／前輪（モーター）の状態	バックボタンの作動	前照灯の作動	ブレーキオーバーライドの作動	速度切りかえスイッチの作動	警鐘器の作動	ハンドルの状態	モビリティの起動状態	アクセルレバーの状態	パーキングブレーキレバーの作動	ブレーキレバーの引き残り代	タイヤの状態	ボデーパネルの状態	バッテリーの取り付け状態／取りはずし

このページはコピーしてご利用ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

仕様情報

3

3.	仕様情報	
	仕様	66

仕様

モビリティ

最高速度	前進	2, 3, 4, 5, 6, 10km/h（切りかえ可）
	後退	1km/h
サイズ	全長	700mm
	全幅	450mm
	全高	1210mm
重量		29kg
充電時間		2.5 時間（バッテリー交換可）
航続距離／時間 ※ ¹		14km ／ 2.5 時間
最小旋回半径		その場旋回可
最大登坂		6°
段差上限		25mm
適応気温		0℃～ 40℃
身長制限		140cm ～ 185cm
体重制限 ※ ²		100kg

※¹ 気温 20℃、搭乗者の体重 70kg、速度 6km/h で平坦路を走行時、満充電から停止するまでの距離／時間を示します。搭乗者の体重や路面状況により変化します。

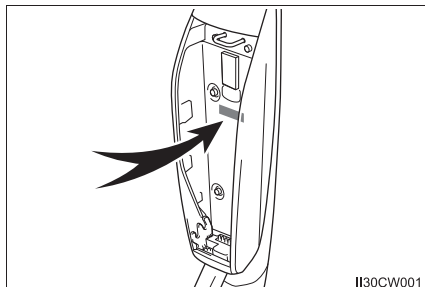
※² 搭乗者の体重・着衣および荷物の合計です。

バッテリー

サイズ	高さ	394mm
	幅	112mm
	奥行	90mm
充電時消費電力		170W

車台番号

バッテリー取り付け部にあります。



保証

4

4. 保証

保証について	70
保証書	71
保証登録書	76

保証について

お買い上げいただきました製品は、トヨタの厳しい品質管理のもとで製造されたものですが、万一、材料上あるいは製造上の不具合がありました場合には、保証書に示す条件にしたがって無料で修理させていただきます。

保証書

① 保証の内容

この保証は、保証登録書に記載されたお客様に対して、トヨタ自動車株式会社（以下トヨタといいます）の出荷時のモビリティに組付けられている部品（タイヤを除く）に、材料上または製造上の不具合が発生した場合に、保証書に示す期間と条件に従って、これを無料修理すること（以下、この無料修理を保証修理といいます）をお約束するものです。

保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。

なお、この際に取り外した不具合部品は、トヨタの所有となります。

② 保証修理の受け方

保証修理をお受けになる場合は、本書（保証登録書を含む）をご提示のうえお買い上げ販売店または取り扱い販売店に保証修理をお申しつけください。

本書（保証登録書を含む）をご提示されない時は、保証修理をお受けいたしかねます。

③ 保証の対象と期間

保証対象	保証期間
下記を除く全部品 ● 消耗部品および油脂類 ● タイヤ ● トヨタの出荷後、トヨタ以外の者が装着・架装した部品・架装物	お買い上げ日から 1 年間

④ お客様にお守りいただく事項

お客様のモビリティが、本書にしたがった正しい使用・管理がなされている場合に、保証いたします。

守られていない場合は、保証修理をお断りすることがありますので、ご承知おきください。

⑤ 保証しない事項

(1) 以下の現象等、不具合と認められないものは保証修理いたしません。

① 通常の使用損耗あるいは経年変化により発生する現象。

（ 消耗部品・油脂類の消耗・劣化等。
樹脂部品、塗装面の自然退色・劣化等 ）

② 製品の機能に影響がないことが一般に認められている現象等。（音、振動、操作フィーリング等）

(2) 以下の不具合は外的要因によるものであり、材料上または製造上の不具合ではないため、保証修理いたしません。

① 飛石、酸性雨、塩害、鳥糞、薬品、鉄粉、煤煙、降灰等の外部要因に起因する不具合。

② 地震、台風、水害等の天災ならびに火災、事故に起因する不具合。

(3) 以下の不具合は、正しい使用・管理等がなされていないことに起因するものであるため保証修理いたしません。

- ① 通常の注意で発見・処置できたにもかかわらず、放置したことにより拡大した不具合。
- ② 保守もしくは整備上の不備または間違いに起因する不具合。
- ③ ご使用の過程で発生したボデーおよび内外装部品の傷・凹み等の不具合。
- ④ トヨタの出荷後に、トヨタ以外の者が装着・架装した部品・架装物（保証修理時に交換部品として新たに装着された部品を除く）、およびトヨタ以外の者による補修（保証修理としてなされた補修を除く）・改造に起因する不具合。
- ⑤ 適切なトヨタ純正の消耗部品・定期交換部品あるいはトヨタが指定する油脂類以外の使用に起因する不具合。
- ⑥ 本書に示す取り扱い方法と異なる使用、不適切な保管、仕様の限度を超える過酷な使用に起因する不具合。

(4) 保証修理以外にトヨタが保証書に基づいて費用（例えば次のような費用）を負担することはいたしません。

- ① 消耗部品および油脂類の交換・補充費用。
- ② モビリティを使用できなかったことによる不便さおよび損失等。
- ③ トヨタ販売店およびトヨタ認定サービス工場以外での修理費用。

(5) バッテリーに関して、次に示すものは保証修理いたしません。

- ① バッテリーの容量低下。（航続可能距離の減少）
- ② 取扱書に示す取り扱い方法と異なる、不適切な充電機器の使用および不適切な充電方法に起因する不具合。

(6) 保証登録書のお買い上げ日、お客様名、販売店名が確認できない場合は保証修理いたしません。

(7) 前記 **③** に示す保証期間を満了したとき、または日本国外に持ち出された場合は保証修理いたしません。

⑥ 保証登録書の再発行

保証登録書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

7 その他

この保証は、保証書に明示した保証期間・条件のもとに無料修理をお約束するものです。したがって保証期間経過後にお申し出のあった不具合修理は原則として有料です。ただしその不具合が使用損耗あるいは経年変化によるものではなく、その全部または一部が供給者側の責任に起因する場合は、責任の度合に応じ、適正な費用負担で修理いたしますのでお買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

愛知県豊田市トヨタ町1番地

トヨタ自動車株式会社

電話(0565)28-2121



お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール 0800-700-7700



受付時間についてはホームページにてご確認ください。
https://faq.toyota.jp/?site_domain=default#contact

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>



M 66004

01999-66004

II-2021年 9 月 1 日

2021年 9 月 8 日 初版

シーウォークティ